

備える。学ぶ。

防災・減災教育プログラム 研修のご案内

講師
派遣

受付中!!

DISASTER RELIEF
VOLUNTEER TRAINING
災害ボランティア・トレーニング

災害に備える。さて、何から？

2017年の発表で、南海トラフの巨大地震の発生確率が70%から80%に引き上げられました。残念ながら、日本は災害が多い国です。毎年、風水害も起こります。ただ、被災地に行くといつても「まさか私が…。もっと事前に準備しておけば良かった」という言葉を耳にします。

備える方法はたくさんあります。自分や家族のため、被災者のため、地域のためなど、目的や対象も様々です。ピースボート災害支援センター(以下、PBV)の研修は、どれも参加型のスタイル。想定外のことが起こる被災地では、落ち着いて自分の判断で行動できる「ひとの想像力」が大切だと実感してきたからです。学ぶことから、備えを始めてみませんか？

チェックしてみよう!

YESがひとつでもあったら、右下の矢印のページへ。

わたしと家族を守りたい

- 携帯で家族と通話ができないとき、他の連絡方法を知らない。 YES / NO
- 自宅に非常持ち出し袋や備蓄品を準備していない。 YES / NO
- そもそも自分が被災したら何に困るのがわからない。 YES / NO

→ p4へ

被災者の役に立ちたい

- いつか災害ボランティアに参加してみたい。 YES / NO
- 被災地に行けないとしても、何かできることを探したい。 YES / NO
- 被災地で活動したいが、ケガや病気になるのが心配。 YES / NO

→ p5へ

地域のために備えたい

- 災害時は被災者自身が頑張るしかない。支援なんて望めない。 YES / NO
- 町内会・自主防災会のメンバーが高齢化してきて心配。 YES / NO
- 避難所での生活は大変そうだが、数日なので我慢できると思う。 YES / NO

→ p6へ

社会のために貢献したい

- 被災地に、寄付や募金、支援物資を届けたい。 YES / NO
- 生徒や社員、地域住民のために研修会・勉強会を開きたい。 YES / NO
- 学校や会社でボランティアをしてみたい。 YES / NO

→ ご提案します。お気軽にご相談ください。

全国の社会福祉協議会のご担当者様へ

災害時には、地域をよく知り、災害ボランティアセンター(災害VC)の運営を担う社会福祉協議会(社協)の役割が大きくなります。PBVの災害支援でも、多くの場合は被災地の社協が現地パートナーです。事前の関係づくりの意味も込め、2017年度以降全社協主催の災害VC運営者研修の講師を担当させていただいています。ご希望に合わせて、全国の各市区町村に講師を派遣しての研修も行っています。災害ボランティア養成講座や災害VCの運営研修など、お気軽にご相談ください。

メッセージ

住民やボランティアの力を被災者となぎ、一緒になって地域の復興に取り組む災害VCの役割は、まさに私たち社会福祉協議会の理念にも通じるものです。ただ、災害対応を専門とする組織ではないため、十分なノウハウを持った職員の人材が限られています。PBVをはじめとする様々なNPOとも協力し、平時の研修や訓練、関係者での情報・意見交換などを通じて、引き続き「被災者中心」「地元主体」「協働」の三原則を実践できる災害VCの普及に努めていきたいと思っています。



社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国ボランティア・市民活動振興センター センター長
高橋良太氏

／ 受講者は、全国で35,000人以上 ／
被災地の現場を知る講師

PBVは、日本全国・世界各地で災害支援活動を行ってきました。研修・トレーニングを担当する講師は、全員が被災地の現場でコーディネーター、リーダーの経験を持っています。



海外31ヶ国、国内54地域での被災地支援 (2020年3月時点)

※1995年以降の国際NGOピースボートが実施した災害支援を含む、これまでに支援した延べ被災地数



海外での主な支援先

- 1999年 台湾大地震
- 2004年 スリランカ・スマトラ沖地震
- 2005年 パキスタン・カシミール大地震
- 2008年 中国・四川大地震
- 2010年 チリ大地震

- 2012年 米国ハリケーン・サンディ
- 2013年 フィリピン台風ハイエン
- 2015年 ネパール地震
- 2016年 ハリケーン・マシュー(ハイチ/キューバ)
- 2019年 サイクロン・イダイ(モザンビーク)

国内での主な支援先

- 1995年 阪神・淡路大震災
- 2004年 新潟中越地震
- 2007年 新潟中越沖地震
- 2011年 東日本大震災
- 2014年 広島土砂災害、山形豪雨
- 2015年 関東・東北豪雨
- 2016年 熊本地震
- 2017年 九州北部豪雨
- 2018年 西日本豪雨、北海道地震
- 2019年 台風15号・19号被害(千葉・福島)

**持続可能な開発目標
SDGsを推進しています！**



PBVは、国連で採択された2030年までの「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進しています。SDGsは、第3回国連防災世界会議(2015年/仙台)で合意した「仙台防災枠組」とも深く関係しており、PBVは防災・減災分野を中心に17の目標の実現に貢献します。

**人道支援の最低基準
「スフィア・スタンダード」**



「スフィア・スタンダード」や「Core Humanitarian Standard (CHS)」は、人道支援の現場において支援者が守るべき国際基準です。PBVは、被災地の現場でこれらの基準を遵守して活動するほか、日本のNPO/NGOと協力し国内での普及活動にも取り組んでいます。

**全国災害ボランティア
支援団体ネットワーク**



全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)は、被災地における支援のめ・むらを防ぎ、地域のニーズに合った活動を促進するための情報集約、連携調整に取り組んでいます。PBVは、正会員団体として設立当初からJVOADに参画しています。

自助

共助 公助

わが家の災害対応ワークショップ



わたしと家族を守る。

家族のライフスタイルや自宅の状況、地域の特性に合わせて、被災した状況をイメージします。その後、クイズ形式で「避難所はどこ?」「どうやって家族と連絡をとる?」「家にはどんな備蓄を準備しておく?」などを出題。最後に、災害への備えと対策を解説します。

●時間:90分 ●レベル:初級

●受講料:600円 ※講師派遣(別途料金)にも対応します。

内容

- ① 記入式のワークⅠ
家族・自宅・地域を知る
- ② 記入式のワークⅡ
災害発生から72時間をイメージする
- ③ クイズと解説
対応と備えを考える

対象

対象年齢:15歳以上
何を準備すればいいかわからない人
防災・減災について基本から学びたい人



教材となるワークブック。お住まいの地域の防災マップもご持参ください。

受講者の感想 /

授業があった日の夜、ご飯中に家族で防災について話しました。実際に次の日に地震(震度4)がありましたが、昨日話し合ったせいか落ち着いて行動ができました。

(宮城県在住/女子中学生)

「わが家の災害対応ワークショップ」は、文部科学省が推進する「地域学校協働活動」の中学・高校生対象のプログラムとして講師派遣もしています。

講師になってみませんか?

「わが家の災害対応ワークショップ」は、初心者でもわかりやすく防災・減災の基礎を学ぶことができる人気の研修メニューです。たくさん講師派遣のご相談もいただきますが、なかには「東京から講師を呼ぶ予算がない」といった悩みを抱えている場合も。それなら、あなたの地域や組織で講師を育ててみませんか? 一度ワークショップを受講した人向けに、講師の養成プログラム(5時間/一人33,000円)を実施しています。

教材や参考書に。



パンフレット内で紹介している研修教材は、冊子・書籍としてご購入いただくことが可能です。

PBVの講師が研修を担当するときはもちろん、自分たちで開催する勉強会の参考資料としてもご活用ください。

 Safety bank

その他、災害時に役立つ防災グッズなどの販売も行なっています。
詳細は、<http://safetybank.jp/>

講師の体験談 |

わたしたちも地元の福岡で、
ワークショップを開催しています!



東日本大震災をきっかけに、地元の福岡からできる被災地支援に取り組んできました。九州は自然災害の多い土地柄。NPOとして、日頃から地域の防災・減災にも取り組もうと、スタッフが「わが家の災害対応ワークショップ」の講師養成プログラムを受講しました。自分たちなりのカスタマイズも加えて、定期的に福岡でワークショップを開催しています。



NPO法人福岡被災地前進支援
理事長

吉田敦さん

災害ボランティア入門



被災地の役に立ちたい!

自然災害に関する一般知識、被災地で注意すべきケガや病気、ボランティアの活動の種類、心構えや持ち物などを解説します。災害ボランティアの経験・未経験を問わず、2時間のセミナーとカードゲームでわかりやすく学びましょう。ボランティアの活動グッズも紹介します。

- 時間: 120分 ●レベル: 初級
- 受講料: 1,000円 ※講師派遣(別途料金)にも対応します。

内容

- ① 講義
災害の種類と防災・減災の基礎知識
- ② カードゲームと解説
「クロスロード」ボランティア編
- ③ 講義
活動の種類と心構え

対象

対象年齢: 16歳以上
はじめてボランティアに参加したい人
経験者だが、きちんと学んでみたい人



教材は、初心者にもわかりやすく解説したブックレット
(2019年/合同出版)

受講者の感想 /

被災地に行く前のタイミングだったので、様々なことを想像しながら受講しました。現場での具体例も多く紹介があり充実でした。自分にもできることはあると思えました。
(群馬県在住/40代男性/公務員)

リーダートレーニング



「現場」での判断力と実践力。

行政や関係機関とボランティアの役割、現場での判断力、被災地での安全管理、被災者への配慮方法など、現場のボランティアリーダーとして必要な知識を深めます。過去の被災地で直面した葛藤・ジレンマを事例に、予防と対応策を考えるケーススタディも行ないます。

- 時間: 2日間 ●レベル: 中～上級
- 対象: 入門編の受講者、ボランティア経験者
- 受講料: 一般3,000円/学生・PBV会員1,000円

1 目 目

災害支援の枠組みとボランティアリーダー
被災地でのリスクマネジメント
被災者と支援者の多様性を考える

2 目 目

安全管理と傷病対策(一部実技あり)
過去の事例から学ぶケーススタディ
フィードバック、修了証の発行



受講者の感想 /

幅広い世代と一緒に話し合う中で、いい意味で自分の先入観が崩れていきました。実際の被災地ボランティアでも、皆同じ目的を持った仲間だと理解して活動したいです。
(東京都在住/20代女性/学生)

修了者には、被災地のボランティア情報やスキルアップ講習もお知らせしています。

自助

共助 公助

支援を活かす地域ワークショップ



被災体験から学ぶ地域防災。

東北や熊本で被災者が直面した事例をもとに、「災害に遭ったとき、誰がどのように支援してくれる?」「災害時に必要な地域のつながりとは?」など、近隣での支え合いと外部支援の受け止め方を学びます。後半は、平時に取り組むべき地域での顔の見える関係づくりを考えます。

- 時間: 3~4時間 ●レベル: 中級
- 受講方法: 講師派遣 ※全国各地に、講師派遣(出張)しています。

内容

- ① 講義
災害対応の流れと役割分担
- ② 設問と解説
「ひと・もの・かね・情報」の活用
- ③ グループワーク
災害時に役立つ地域資源とは?

対象

町会・自治会の自主防災会
地域の青少年委員、民生委員
災害時の「受援力」を育てたい地域



実施時間や内容は、地域の実情に合わせてカスタマイズします。
お気軽にご相談ください。



教材には、東日本大震災の宮城県石巻市での住民からの教訓が盛りだくさん。

受講者の感想 /

過去に聞いた被災地の「点」の話が、一連の流れでつながり有意義だった。自主防災組織としての今後の取り組みの参考になりました。資料もわかりやすかった。

(香川県在住 / 70代男性 / 自主防災組織)

避難所の運営研修

命、生活、尊厳を守る。

ひと口に「避難所」と言っても、行政が指定する施設や自主的な避難先など、その種類は様々です。大きな災害になれば、避難所は何ヶ月もの間生活を続ける空間になります。避難者の命と生活、尊厳を守るため、中長期での避難所の運営と環境改善のヒントを学びます。

- 時間: 2時間~ ●レベル: 初~上級
- 受講方法: 講師派遣 ※全国各地に、講師派遣(出張)しています。

メニュー例

- ① 講義・ワーク
避難行動から避難生活を知り、体系的に基礎知識を学ぶ
- ② 講義
開所から閉所まで、避難所の運営と環境改善のポイント
- ③ 事例・話題提供・ワークショップ
食事、衛生、ジェンダー、要配慮者などテーマ別に被災地の実態を学ぶ

対象

行政・自治体職員の防災担当者
地域の避難所運営担当者
避難所での課題や困りごとを学びたい住民や団体



カードで学ぶ「避難所運営ゲーム(HUG)」の実施も可能です。

被災地の声 /

熊本地震の避難所では、たくさんの課題がありました。東北でも支援の経験があるPBVによる長期で継続的なサポートに、住民も心が癒され、前向きになれたと思います。

(熊本県益城町役場より/一部抜粋)



被災者中心・地元主体・協働

被災地では、地元の社会福祉協議会(社協)が中心に災害ボランティアセンター(災害VC)を運営することが一般的です。被災者のニーズをきちんと把握し、次々と集まるボランティアを適材適所につなぐマッチング。フェーズ(時期)ごとに、シミュレーションします。

- 時間:3~4時間 ●レベル:中級
- 受講方法:講師派遣 ※全国各地に、講師派遣(出張)しています。

内容

- ① 講義
災害VCの役割とは?
- ② カードゲーム・ワーク
ニーズとボランティアのマッチング体験
- ③ 振り返りと解説
事例紹介、社協がなぜ災害VCを担うのか?

対象

社協の職員
災害VCと連携する行政やNPO
災害VCの運営を手伝う住民ボランティア

近隣の市区町村や災害VC運営で連携する行政・NPO・住民の合同研修など、大人数にも対応可能です。



ニーズ票とボランティアカードの内容を見比べてマッチング。途中でハプニングも?

受講者の感想 /

具体的に起こりうる状況設定と、災害VCの立ち上げ期~閉所までのニーズの変化が時系列で想像できました。グループワーク形式も、とても分かりやすくよかったです。

(東京都在住/社協職員)

災害VC設置訓練、運営研修

現場と運営のイメージを持つ。

災害VCの運営には、関係者の共通理解が欠かせません。そのためにはマニュアルに添って各班・チームの動きを確認する訓練もあれば、関係者による意見交換会や研修を重ねていく方法もあります。講師は、これまでの被災地での活動経験を基に事例紹介や講評を担当します。

- 時間:メニューにより異なります ●レベル:中~上級
- 受講方法:講師派遣 ※全国各地に、講師派遣(出張)しています。

メニュー例

- ① 講評・アドバイス
災害VC設置・運営訓練を振り返って
- ② ケーススタディ・ワーク
多様なニーズに対応する災害VCとは
- ③ 相談・コンサルティング
意見交換会への参加・資料の提供など

対象

社協の職員
災害VCと連携する行政やNPO
災害VCの運営を手伝う住民ボランティア

主な研修スタイルは上記の①~③ですが、地域事情が異なるため、ご相談の上で内容を決めています。



全社協の災害VC運営者研修(2017年度)でも実施したケーススタディのワーク資料。

被災地の声 /

2015年の大水害で社協として苦しい時期を乗り越えることができたのは、ボランティアと支援団体、県内外の社協職員のネットワークがあったからこそと感じています。

(茨城県常総市社協より/一部抜粋)

＼私も推薦します。／



株式会社モンベル
代表取締役会長
辰野勇さん

ピースボートとの出会いは2005年に発生したパキスタン地震での支援活動でした。私自身、アウトドアのグッズやノウハウが災害の現場でも活かせると思い、その後も新潟中越沖地震や東日本大震災などで支援活動に協力させていただきました。支援を行なう現場で感じたのは、“日ごろからの準備”とともに、その備えたものを使いこなせる“想像力と知恵”を身につける必要があるということ。残念ながら、災害は防ぐことができません。一人ひとりが備えることで、災害による被害を少なくしたいと思います。



関西大学社会安全学部社会安全研究科
准教授
菅磨志保さん

「自発性を組織化する」とは矛盾した課題だ。活動効率を高め、組織化を追求しようとするれば、ボランティアの個性は活かし難く、自発性も萎えてしまう。阪神・淡路大震災で「組織化されたボランティア」が被災地の役に立つことを見せてくれたピースボート。東日本大震災でも、大勢のボランティアを被災地につなぎ注目された。そんなPBVのトレーニングでは、個々のボランティアの意欲と力を引き出しながら、被災地の役に立つ活動を展開していく秘訣が学べる。そのノウハウは、被災地での活動だけでなく、日常の地域課題を考えていく上でも様々なヒントと提供してくれると思う。

＼講師派遣は、お気軽にご相談ください！／

PBVでは、本パンフレット記載の研修をはじめ、各種講演や研修の講師派遣を行なっています。対象者に合わせた内容や実施時間のアレンジ、イベントや防災キャンプなどの業務委託、執筆や取材協力なども可能です。お気軽に事務局まで、お問合せください。

講演・講師派遣の金額の目安(税込)

1時間程度の研修の場合

- ・営利団体・自治体 | **77,000円～**
- ・非営利団体・学校 | **55,000円～**

※講習費は実施時間や内容、派遣講師の人数により異なります。
※講師の旅費交通費、教材が必要となる場合には、実費を別途請求させていただきます。

TEL: **03-3363-7967** (10:00～18:30 / 土日祝定休)

MAIL: **training@pbv.or.jp**

